

## 水戸徳川家と会津、高須松平家との関わり

### 1 ご三家・ご三卿・ご連枝・ご家門

前沢瑞穂

ア ご三家 徳川家康の9男、10男、11男の系譜

- ・9男 尾張・義直を藩祖とする系譜・・・・・・・・→徳川家
- ・10男 紀伊・頼宜を藩祖とする系譜・・・・・・・・→徳川家
- ・11男 水戸・頼房を藩祖とする系譜・・・・・・・・→徳川家

イ ご三卿 8代将軍・吉宗の次男、4男と吉宗の孫・重好の系譜

- ・田安家 →次男・宗武の系譜・・・・・・・・→徳川家
- ・一ツ橋家→4男・宗尹の系譜・・・・・・・・→徳川家
- ・清水家 →吉宗の孫・重好（吉宗の長男・家重の次男）の系譜→徳川家

ウ ご連枝 ・松平家、ご三家（尾張、紀伊、水戸）の支藩

- ・水戸家支藩→高松藩、守山藩、府中藩、宍戸藩・・・→松平家
- ・尾張家支藩→高須藩、など他省略・・・・・・・・→松平家
- ・紀伊家支藩→伊予国、西条藩など・・・・・・・・→松平家

エ ご家門 ・松平家 ご三家、ご三卿以外の将軍家一族大名

- ・会津藩、桑名藩 など他省略・・・・・・・・→松平家

### 2 「保科正之」と「会津藩」について

以上は水戸家と縁戚関係にある一部である。この中の「会津藩」の藩祖「保科正之」は2代将軍「秀忠」の4男として生まれた。従ってその家格はご三家、ご三卿に並ぶ名族である。正之は「水戸黄門」やご連枝藩祖らとは従兄弟関係に当たる近親である。

正之は、はじめ武田信玄の娘・見性院の手で養育され、5歳の時、保科正光に託された。寛永6年（1629）江戸に出て、父・秀忠に拝謁した。その後、寛永20年、陸奥国会津23万石を給され「会津藩・松平家の藩祖」となった。

なお、正之の異母妹・秀忠の5女「和子」は、後水尾天皇の女御で、明正天皇の母君となっている。従って、徳川一門の中で、水戸と会津は、徳川将軍家とは言うに及ばず、皇室との関わりも深い。幕末の孝明天皇は、水戸藩と会津藩に絶大の信頼を寄せていた。

9代「松平容保」の祖父、高須藩9代・「松平義和」は、水戸家6代「徳川治保」の二男であり、「容保」は実弟・桑名13代藩主「定敬」と共に、水戸と血縁関係にある。従って、水戸藩に対しては、近親感と同時に、水戸藩の内部党争には親身になって憂慮していた。万延元年に水戸浪士らによる「桜田門外の変」直後、激昂した幕閣や彦根藩士らは「水戸を討つべし」との意見も出たが、その武力衝突を回避する努力をしたのは「松平容保」であった。

なお、水戸の徳川斉昭の19男「喜徳」は、会津藩「容保」の養子になっている。喜徳は明治6年、会津松平家を離れ、のちに水戸支藩・守山松平家を相続している。

### 3 「水戸徳川家」と「高須松平家」との関わり

高須家は、尾張徳川家2代藩主「光友」の次男「松平義行」にはじまる。江戸時代の後期の9代藩主「義和」は、水戸徳川家6代藩主・治保の次男である。義和の次男・高須10代藩主「義建」の正妻は、水戸藩主「治紀」の娘である。

義建の6男が9代会津藩主「松平容保」であり、その実弟7男が13代・桑名藩主「松平定敬」である。

妻（水戸5代藩主、宗翰の娘）

初代・松平義行・・・6代・義裕・・・9代・義和（水戸6代藩主・治保の次男）

・・・・・・・・・・・・・・・・10代・義建（正妻、水戸7代藩主・治紀の娘）

6男、容保（9代・会津藩主）

側室 7男、定敬（13代・桑名藩主）

後妻（水戸10代藩主・慶篤の娘）

### 4 「奥羽越列藩同盟」と「諸生党」・「会津籠城戦」とその後の行方・・・

諸生党や会津藩は所々で同盟軍と協力して戦っていたが、両方とも正式には「奥羽越列藩同盟」に入っていなかった。

そもそも同盟のはじまりは慶応4年、鳥羽伏見戦争の際、奥羽鎮撫府から仙台藩に対して、「会津を追討せよ」との勅命が出された。しかし、仙台藩には薩長中心の「王政復古」改革に反対するものも多くいた。従って、追討というより、会津に降伏を促すためにその交渉に当たった。だが会津藩の戦意は堅く、交渉は容易に進まず、しばらく足踏み状態であった。先に奥羽入りして、東北諸藩の様子を探索していた長州藩参謀「世良修蔵」は、東北諸藩の消極的態度に激怒し「奥羽皆敵」の報告文を本部に送ろうとした。これが仙台藩士らに発見され、世良は捕えられ阿武隈河原で処刑された。

この事件から仙台藩はじめ奥羽諸藩は、期せずして、薩長軍の敵となった。仙台・米沢藩が中心となり、奥羽諸藩に呼びかけて結束し、慶応4年3月「奥羽越列藩同盟」を成立させた。その名目は、会津藩「救援」であったが、輪王寺宮を奉戴し、さらに、会津の堅い戦意に便乗して、政権奪還の夢もあったと考えられる。

しかし、同盟の結束は意外に弱く、仲間藩の降伏が続出し、9月4日。米沢藩が降伏した。明治元年9月14日、西軍は「鶴ヶ城」を総攻撃した。その直前に仙台藩が降伏し、「奥羽越列藩同盟」は完全に崩壊した。その間、会津藩兵と諸生党は協力して西軍と戦い、激しい籠城戦の最中であった。

9月22日、鶴ヶ城落城し「会津」に銃砲声が絶えた。同志「会津」の開城で「諸生党」は行き場を失った。協議の結果、水戸にもどることになった。

諸生党は9月25日会津を出発し水戸へ向かった。その後、10月1日「弘道館の戦い」に続き、10月6日の「八日市場の戦い」に至る、壮絶な運命に遭遇することになる。

以上